

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（令和3年度）

JAバンク新潟（県下19JAと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

令和3年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

《目次》

1	農山漁村等地域の活性化のための金融支援	・・・・・・・・P2
2	担い手の経営のライフステージに応じた支援	・・・・・・・・P5
3	農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・・・・・・・・P11

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

令和4年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は69,192百万円(うち農業経営向け貸付金39,546百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は15,698百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和4年3月末現在
農業経営向け	39,546
穀作	20,553
野菜・園芸	2,182
果樹・樹園農業	767
工芸作物	152
養豚・肉牛・酪農	1,533
養鶏・鶏卵	273
養蚕	—
その他農業	14,083
農業関連団体等	29,646
合 計	69,192

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和4年3月末現在
プロパー農業資金	58,430
農業制度資金	10,762
農業近代化資金	4,403
その他制度資金	6,359
合 計	69,192

(注)

1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。

2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。

3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

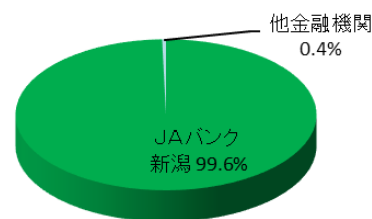
種 類	令和4年3月末現在
日本政策金融公庫資金	15,698
その他	—
合 計	15,698

(注) JAバンク新潟では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金残高】 (令和3年12月末時点)

新潟県内総貸付残高	4,415 百万円
うちJAバンク新潟残高	4,397 百万円
〔出所：新潟県農林水産部経営普及課〕	



農業近代化資金 県内シェア
(令和3年12月末時点)

(2) アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

JAバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」、「プロパー投資」による出資を提案しています。

令和3年度末の出資先は15先、出資総額は122百万円となりました。

【農業者向けファンド取扱実績(令和4年3月末)】

(単位：先、百万円)

ファンド名	先数	出資額
アグリシードファンド	12	77
担い手経営体応援ファンド	2	35
プロパー投資	1	10
合 計	15	122

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

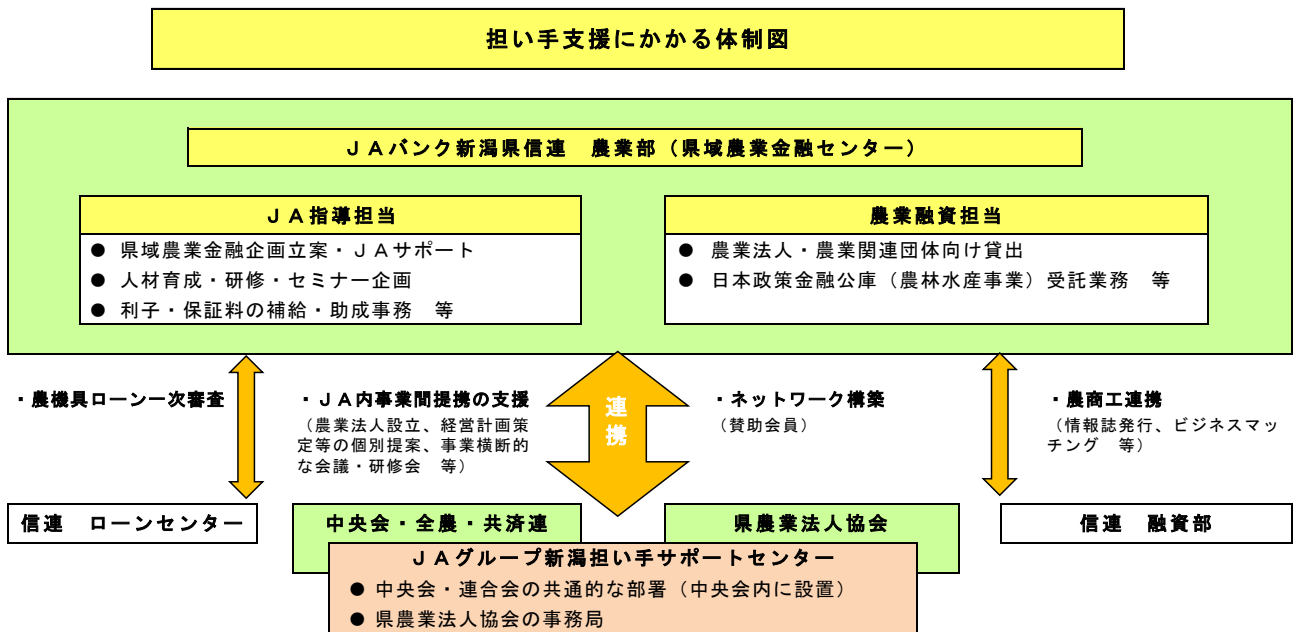
J Aバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

信連では、農業部を「**県域農業金融センター**」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下19 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「**農業融資相談員**」をJ A本支店(所)に181名配置し、また、農業融資の実務を統括する「**担い手金融リーダー**」を22名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「**J Aバンク農業金融プランナー**」の資格取得を進めており、農業融資相談員のうち139名が資格を有しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「**農業経営アドバイザー**」資格の研修・試験にも取り組み、農業融資相談員のうち32名が資格を有しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「**J Aグループ新潟担い手支援室(略称:担い手サポートセンター)**」が中心となり、農業法人設立、経営計画策定および事業承継の個別提案活動や事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。



2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする J A 自己改革を不断の取組みとしていくため、農業者への支援パッケージとして、「にいがた農業応援プログラム」を展開しました。

中でも、柱となる事業の一つである「にいがた農業応援ファンド」について、令和 3 年度は、「新潟県園芸振興基本戦略」の取組みを新潟県および関係機関と一体となって一層推進していくため、「1 億円園芸産地チャレンジ事業」の助成枠を拡充しました。また、「園芸生産拡大支援事業」、「新規・親元就農応援事業」および「商談会等販路拡大の活動支援事業」を継続し、農業者の取組みを支援しました。



効率的な作業のための機械を導入

【にいがた農業応援ファンド取組実績（令和 3 年度）】 (単位：件、千円)

事業名	申請件数	申請金額	採択件数	採択金額
1 億円園芸産地チャレンジ	82	21,476	82	21,476
園芸生産拡大支援	134	22,402	132	21,963
新規・親元就農応援	89	17,800	89	17,800
商談会等販路拡大の活動支援	5	500	5	490
合計	310	62,178	308	61,729

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」等を取り扱っているほか、上記(1)のとおり、J Aバンク新潟独自のにいがた農業応援ファンド「新規・親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取組実績】 (単位：件、百万円)

資金名	令和 3 年度		令和 4 年 3 月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	22	149	436
就農支援資金	—	—	8
合計	22	149	444

(注) 平成 26 年 4 月 1 日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

(3) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援

J Aバンク新潟は、農林水産業の成長力・収益力強化のため、ビジネスマッチングによる販路拡大等の農商工連携推進に取り組み、「農業と地域の架け橋」としての機能を発揮しています。

【情報誌「Sole!にいがた」の発行】

農商工連携推進の一環として、フリーペーパー形式の情報誌「Sole (そーれ) !にいがた」を平成22年7月に創刊、以来年4回発行しています。

この情報誌では、「農・商・工をつないでみんなで作る新潟の元気!」を合言葉に、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内のJ A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。

※バックナンバーは、Sole!にいがたホームページまたは信連ホームページからご覧いただけます。



Sole!にいがた

(4) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、融資取引先や農業法人等の皆さま向けに、講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

〈令和3年度に開催したセミナーの概要〉

名称	主催者	対象者	内容
第15回農業法人経営者セミナー	信連	県下農業法人およびJ A等	【第一部】 演題：「コロナ禍において求められる農業経営」 講師：新潟食料農業大学 青山浩子 氏 【第二部】 演題：「カガヤキ農園の取り組み」 講師：(有)エーエフカガヤキ 代表取締役 立川幸一 氏

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、セミナーを収録したDVDを農業法人等の皆さまに提供する形での開催となりました。(DVD提供枚数：849枚)

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積
 信連では、農業所得の向上および農業者の満足度向上に向けた取組みとして、地域の中核的な役割を担う農業者に対し、業種特性や外部環境・内部環境を踏まえたヒアリングを行い、経営・事業の課題解決に向けて、JAや関係機関、専門家等と連携し、適切なソリューションの提供に向けて取り組んでいます。

今後も、ソリューション提供先の課題解決に向けて進捗状況を確認し、取組事例を蓄積していきます。

【具体的取組事例①】

営農類型	穀作、野菜・園芸
概要	<p>米作を中心としながら園芸作物の生産にも注力している農業法人に対して、経営課題や将来展望等のヒアリングや財務内容分析を実施し、課題の抽出・整理を行いました。</p> <p>以上を踏まえて、利益体質への転換や経営基盤強化を実現していくにあたり、部門ごとの改善点を共有したうえで、解決に向けたソリューションの提案を行っています。</p> <p>①芋部門 圃場面積に対して各種管理が不十分であり反収が少なく、費用が嵩んでいることから収益性が低いことに加え、機械化が進んでいないこと等から作業効率にも課題が生じているため、圃場管理の徹底や各種作業の見直しを提案しました。</p> <p>②水稲部門 近年拡大した圃場の反収が低位であるなど、圃場ごとの反収にばらつきが生じていることから、土壌診断を実施のうえ、各圃場に最適な管理・栽培方法を実践するよう提案しました。</p> <p>③米（直接販売）部門 ネット販売を中心に直接販売における販売価格が低く設定されているため、見直しの余地が存在することから、既存取引先および新規取引先との価格交渉の実施を提案しました。</p> <p>引き続き、経営者との対話を通じて進捗状況を確認しつつ、解決すべき課題の共有と最適なソリューションの提供を行っていきます。</p>
成果(効果)	<p>既存事業の収益改善に取り組み、利益を生み出す事業モデルを確立して経営基盤の安定化を図るとともに、将来的には規模拡大によってさらなる売上高の伸長および収益性の向上が期待されます。</p>

【具体的取組事例②】

<p>営農類型</p>	<p>穀作、野菜・園芸</p>
<p>概要</p>	<p>米作を中心に大豆、冬季にはハウスにて園芸作物の生産を行っている農業法人に対して、仕入や生産、流通・販売等経営面の特徴や将来展望のヒアリングおよび財務分析を実施し、課題の抽出・整理を行いました。</p> <p>整理した内容を踏まえて、品目別収支分析を実施し、短期・中期・長期的な経営ビジョンの実現に向けた収益改善および経営基盤強化を目指していくにあたり、JA営農部門とも経営課題を共有したうえで、解決に向けたソリューションを提案しました。</p> <p>①経営資源の有効活用 固定資産の運用効率向上のため規模拡大計画の早期実施や、冬季の従業員の効率的な稼働に向けた新規収益源としての除雪作業受託を模索することを提案しました。</p> <p>②水稻の生産性向上 反収向上の余地を探るとともに、生産ノウハウを蓄積・継承するため、前代表が他の社員への技術指導を継続していくこと、JAの営農指導に基づく土壌分析・改良、JA主催の研修会への参加による技術力向上を提案しました。また、生産コスト低減の観点から直幡栽培の拡大についても提案しました。</p> <p>③品目構成の見直し 生產品目ごとの栽培技術の成熟度に偏りがあり、採算性にも大きな差があることから、同法人が自力で品目別の反収・単価・各種費用を把握し、JAから営農情報および農政情報の提供を受けながら定期的に品目構成の見直しを行えるよう提案しました。</p> <p>④新規販路開拓 高単価な直販や古代米の新規販路開拓の意向があることから、当会の広報誌掲載によるPR活動やネット販売の拡大、当会取引先とのビジネスマッチングを提案しました。</p> <p>引き続き、経営者との対話を通じて、JAと連携しながら解決すべき課題の共有と最適なソリューションの提供を行っていきます。</p>
<p>成果(効果)</p>	<p>規模拡大に伴う収量増加および経営資源の有効活用により収益性を高め、持続的で高収益な事業運営体制が構築されることが期待されます。</p>

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者や、各種自然災害等の被災者を支援するため、相談窓口を設置したほか、対策資金等の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

【災害対策資金の取組み】

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
新型コロナウイルス感染症緊急対策資金	J Aバンク新潟	新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟および農林中央金庫からの利子補給による低利の資金を令和2年度に創設し、取扱いを継続	4	12
令和3年度災害復旧支援資金	J Aバンク新潟	凍霜害や暴風被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設	88	175
令和3年度緊急農業経営安定対策資金	J Aバンク新潟	令和3年産米価格の下落等により影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設	487	962
合 計			579	1,149

(7) 経営不振農業者の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【令和3年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
		正常先 ①	22	19	19	86.4%
要注意先	うちその他要注意先 ②	35	6	9	17.1%	25.7%
	うち要管理先 ③	6	0	1	0.0%	16.7%
	破綻懸念先 ④	31	7	3	22.6%	9.7%
	実質破綻先 ⑤	20	10	2	50.0%	10.0%
	破綻先 ⑥	0	0	0	—	—
	小計 (②～⑥の計)	92	23	15	25.0%	16.3%
	合 計	114	42	15	36.8%	13.2%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は令和3年3月末時点のものです。

(8) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【令和3年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	令和4年3月末 残高
農業負担軽減支援資金	3	26	641
畜産特別資金	1	24	53
土地改良負担金対策資金	3	37	418
農業経営負担軽減支援資金	—	—	28
その他	—	—	20
合計	7	87	1,161

- (注) 1 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- 2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また、地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) J Aバンク新潟食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子どもたちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」（小学校高学年向け、特別支援学校生向け）の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校442校へ21,530部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校22校へ389部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下J Aでは、下表のとおり食農教育にかかる様々な実践活動に取り組んでいます。令和3年度においては、県内18J Aが当事業を活用して食農教育活動を実施しました。各J Aがコロナ禍においても創意工夫のうえ、地域の活性化の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を活用した各J Aの活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	農業体験作文コンクール	小中学生を対象に、農業体験学習「学校教育田」の体験に基づく作文コンクールを実施。
J Aかみはやし	野菜・花植え体験	園児を対象に、野菜・花の苗植えの体験を実施。
J A北越後	ミニクリスマスツリー作り	小学生を対象に、地元切花農家の花を使用し、切花の紹介をしながらクリスマスツリー作りを実施。
J A胎内市	小学校田植え・稲刈り体験学習	小学生を対象に、田植え・稲刈り体験学習を実施。
J A北蒲みなみ (現J A新潟かがやき)	食農教育出前授業	幼稚園児・保育園児を対象に、食と農についての紙芝居・エプロンシアター・クイズを実施。
J Aささかみ(青壮年部) (現J A新潟かがやき)	学童農園	小学生を対象に、稲作栽培の体験を実施。
J A新潟みらい (現J A新潟かがやき)	空き容器で野菜づくり	親子を対象に、豆腐パックなどの空き容器を利用した野菜づくり体験を実施。
J A佐渡	お茶摘み取り体験	小学生を対象に、地元農家の指導による茶摘み体験を実施。
J Aにいがた南蒲	なんかん育ちの元気スクール	小学生親子を対象に、スクール型農業体験、野菜(ブロッコリーなど)栽培、冬野菜収穫、調理体験を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A越後ながおか	小学生向け料理本「Let's クッキング」配付	小学生を対象に、J Aオリジナル料理本を作製・配付し、家庭での調理体験を実施。
J A越後さんとう	笹団子&笹寿司作り	園児・小中学生親子を対象に、郷土食である笹団子・笹寿司作り体験を実施。
J A越後おぢや	農業体験学習出前授業	小中学生を対象に、野菜苗の移植の出前授業を実施。
J A北魚沼	食農教育図画コンクール	小学校を対象に、「地元のお米・野菜・ぼく・わたし」図画のコンクールを実施。
J Aみなみ魚沼	夏休み子ども料理教室	小学生を対象に、料理レシピと食農クイズ等の冊子を作製し配付。
J A十日町	どろんこキッズスクール	小学生を対象に、バケツ稲作り、サツマイモ苗植付、収穫したお米の調理体験を実施。
J A津南町	どろんこ体験学習	小中学生を対象に、野菜、米、花の栽培体験学習を実施。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生親子を対象に、お米の授業、調理実習、プランター栽培、みそ作り体験等を実施。
J Aひすい	おにぎり作り体験	園児を対象に、地元産のお米でおにぎり作り体験を実施。

〈J A越後おぢや 農業体験学習出前授業の様子〉



(2) 文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○新潟市アグリパーク「アグリ・アート展」への協賛

芸術活動を通じて子どもたちの農業への理解を深め、アグリ・スタディ・プログラム※の更なる充実に貢献することを目的として、新潟市アグリパークが主催する絵画展「アグリ・アート展」への協賛を行っています。

※アグリ・スタディ・プログラムとは、学習指導要領の内容に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習のことです。

○「アルビレックス新潟」サッカー観戦チケットの寄贈

県内の障害者スポーツ普及活動を支援するため、新潟県障害者スポーツ協会へ、アルビレックス新潟のホームゲーム招待券を寄贈しています。

令和3年度は、リーグ戦全21試合、延べ231名を招待しました。

○公益信託「J Aバンク新潟県信連創立50周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

○「がんの子どもを守る定期貯金」の受入を通じた、がんの子どもを守る会への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、貯金の受入れを通じた小児がん患者への支援を目的として、平成29年度より「がんの子どもを守る定期貯金（ゴールドリボン定期貯金）」を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、令和3年度は140万円を公益財団法人がんの子どもを守る会に寄付することができました。

○エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○環境保全への取組み

ビル内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

以 上